

救 急

救 急：救急部門の必須研修もしくは選択研修

指導医：救急治療部長(救急専門医、総合内科専門医、宇宙航空医学認定医)、指導医の資格

のある救急部担当医師、各診療科の指導医の資格のある医師

指導者：外来師長、救急外来専従看護師

●一般目標 (GIO)

1. 本邦での医療体制、院前救護体制(メディカルコントロール、救急隊員活動)および院内の医療体制を理解する。→ 将来自身が社会や医療チームの一員として担う役割を考慮することができるような知識と能力を養う。
2. 救急診療における基本的な手技・知識を体得する。→ 将来自身が経験する、患者の予期せぬ状態悪化に対応する知識と能力を養う。
3. 様々な悩みや社会的問題を抱えた患者に真摯に対応する知識と能力を習得する。
→ 将来自身が経験する、患者の生命を脅かす社会的な課題を解決する知識と能力を養う。

●行動目標 (SBOs)

1. 心肺蘇生法を習得する。
2. 緊急性と重症度の高い代表的疾患を理解し、初期診療を実践できるようになる。
3. 様々な疾病・緊急度の救急患者に対する第一印象・初期 ABCD の評価および介入を理解し実践できるようになる。また複数患者の初期診療において優先度をもって診療するトリアージという考え方を理解し実践できるようになる。
4. 限られた状況の中で本人及び家族と良好な関係性を確立し、必要な病歴聴取を行う能力を習得する。
5. バイタルサイン、身体診察及び超音波検査の意義を理解し実践できるようになる。
6. 血液検査や画像検査・生理検査の意義を理解し、適切なモダリティを選択し診断に結びつける能力を習得する。
7. 上級医あるいは他の診療科の医師と協議を行いながら診療を進める能力を習得する。また、看護師や技師など院内の他職種と連携・協力し、良好なコミュニケーションのもとで診療を進める能力を習得する。
8. 病院前救護体制の大きな役割を担う救急隊員と適切なコミュニケーションのもとで活動を進める能力を習得する。
9. 患者の悩みに寄り添い、社会的背景に思いをはせ、保健・福祉を巻き込んだ多職種で連携し解決を試みる能力を習得する。
10. 将来起こる自然災害や戦争において重要となる災害医療を理解し実践できるようになる。また将来起こるパンデミックにおいて重要となる感染症の考え方を理解し実践できるようになる。

●方略

<スケジュール>

- ・ 初日に救急外来業務に関するオリエンテーション
- ・ 毎日 8:30～救急外来で当直者との引き継ぎ・ミーティング
- ・ 毎週火曜日 14:00～ 症例検討会: 救急外来患者および入院患者について症例検討。研修医が担当した救急外来患者についてプレゼンテーションを行う。
- ・ 毎週火曜日 16:00～ AST(antimicrobial stewardship team)カンファレンス

<救急診療について>

- ・ 救急車で搬入される症例は上級医のサポートのもと初期診療を行う。救急隊からの申し送りを受け、チームのリーダーとして看護師、コメディカルに指示を与え診療をすすめる。
- ・ 内科疾患については救急担当の内科医師とともに、外科疾患については疾患により該当する科の医師とともに診療する。

<日当直業務>

- ・ 月に7回を上限に日当直業務を行う。内科系日当直、外科系日当直、小児科日当直、ICU日当直(循環器科医師)がおり、これらの上級医とともに診療を行う。

<その他の Off-JT>

- ・ 院内で開催される新人職員 BLS 講習会、救急医学会 ICLS(年3回)、日本内科学会 JMECC への参加。
- ・ 院内災害訓練への参加。
- ・ 救急関連学会への参加・発表。

●評価

- ・ 病院として定めた評価方法にて評価を行う。
- ・ 評価者は、指導医、指導者(外来師長、等)が行う。
- ・ 研修医からの評価も必ず施行する。